

定年退職者の職歴と再就職行動

梶谷 真也*

大阪大学大学院国際公共政策研究科

要旨

高齢期に退職した人が再び就業する時、彼らは蓄積してきた人的資本を活かす仕事、すなわち、それまで従事した職種と同じ職種で再就職するのか。また、その就業選択に大きな影響を及ぼすのは労働需要側の要因なのか、賃金なのか、それとも年金なのか。本稿では、高齢・障害者雇用支援機構(旧高年齢者雇用開発協会)が1997年に行った『定年到達者等の就業と生活実態に関する調査』の個票データを用いて、男性高年齢者について50歳以降主に従事した仕事：Career-jobと再就職後の仕事：Bridge-jobの職種の変化を確認し、再就職時の就業決定要因を職種に注目して分析する。

Bridge-jobの職種がCareer-jobのそれと同じかどうかの割合はCareer-jobの職種によりかなりのばらつきが見られるものの、Career-jobの職種に対する労働需要の増大は、高年齢者がCareer-jobと同じ職種に再就職する確率を増加させる。また、年金額の増加は高年齢者の労働供給に統計的に有意な負の影響を与える。一方、賃金の内生性をコントロールすると、賃金は高年齢者の労働供給に統計的に有意な影響を与えない。高年齢者の就業選択に大きな影響を及ぼすのは賃金ではなく、労働需要、そして年金である。

JEL classification: J14; J22; J23; J24; J26

Keywords: 高年齢者雇用; 職種; 労働需要; 賃金; 年金

*E-mail: skajitan@osipp.osaka-u.ac.jp